

## 神戸にこども博物館を――

# 親とこどもが一緒に 楽しみながら学べる場を

《座談会出席者》（五十音順・敬称略）

叶 健治〈神戸幼児教育  
神戸アカデミー理事長〉

竹田以和生〈くもん子ども研究所副所長〉

並川 明子〈学校法人和弘学園理事長  
神戸幼児教育センター所長  
音水湖野和弘美術館館主〉

三木 美裕〈元ボストンこども博物館学芸員  
ミュージウム・コンサルタント〉

私達大人は普段、大人の目で、日々の生活を送っていますが、ふと、こどもの視野に立ったとき、こどもにとつての良い施設、さまざまな事柄との出会いの場の意外に少ないことに驚きます。アメリカのボストンで一九一三年に創立した「ボストンこども博物館」をはじめ、アメリカには主要都市各地に「こども博物館」があります。遊びながらいろいろなことを体験し、学べるという「こども博物館」はデイズニランドと並んで人気があります。日本ではまだ数少ない施設ですが、今一度、こどもの置かれている現在の環境を考えつつ、こういったこどものための施設を考えてみる必要があるのではないのでしょうか。今回のキャンペーン座談会では、元ボストンこども博物館学芸員で、現在はミュージウム・コンサルタントをされている三木美裕さんをゲストに迎え、こども達の教育に携っておられる方々にお集り頂き、ご意

見を伺いました。

★幼児体験が一生を決める！

三木 私は専門は中国美術で、今は一生のテーマとしていますが、育ったのが神戸市の灘区でして、ちょうど阪急の六甲、御影のあたりは、白鶴美術館や香雪美術館などの美術館の多いところなんです。私が中学に入った頃に近代美術館ができてまして、電車で一駅だったもので中学・高校と入りびたりました。こどもの頃の遊び場みたいにしていたのです。ただ大学生になると、美術館、博物館が普通に教養を高めるための場所になってしまいました。それが、それまでというのは、美術館、博物館は私にとって非常に楽しい場所だったのです。これが私にとっては自分の一生を決める体験となりました。大人になって美術館の仕事を選んだのですが、大人になってみて、「はて？ 次の世代のこどもたちは、私が体験したような博物館体験ができるだろうか。もっともっとできたらいいな」という自分にとってのテーマが生まれました。そんな中で、アメリカのボストンにこどものための博物館があるということを知り、採用されることになったのです。そしてスタッフとなり、五年が経ち、現在はアメリカ、日本でミュージウム・コンサルタントをやっています。



並川 明子さん



竹田 以和生さん



叶 健治さん



三木 美裕さん

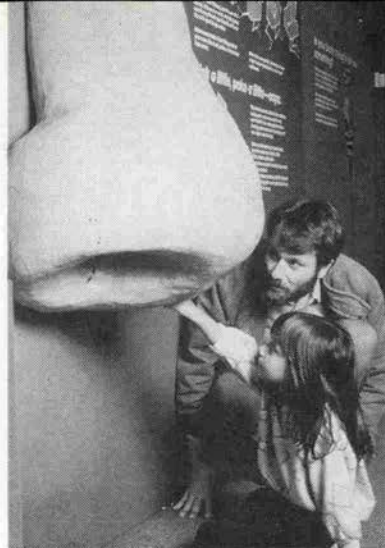
並川 本当にこどもの頃の体験は重要だと思いますよ。幼児体験というのは自分で意識していないのですね。無意識の中にはいろんな可能性が秘められています。私は自分で美術館をつくるとは夢にも思っていなかった。というのは小学生の時に絵を描くのは苦手な方だったのです。私の主人も絵が上手ということではなかった。ただ主人の父が古美術に興味がありまして、骨董屋さん巡りをして小遣をはたいて骨董品を買集めていたのです。結婚した頃の主人はそんな父を悪く言っていました、主人も四十歳ぐらいになると、父と同じような趣味を持つようになったのです。そんな関係で私も主人のお伴で、美術館に行くようになりました。

考えてみると私も母が絵が好きで、シーズンごとうちの床の間に軸をかけかえていました。その度に「これはお母さんの描いた絵だよ」とか「これは春の新緑の絵だよ」とか小学生のこどもなのにそういうことを言いながら、かけていた。私自身もそういう環境の中で育っていたのです。主人は四十六歳で亡くなり、残された美術品をいろんな方に見て頂くのが主人への供養だと思って音水湖畔和弘美術館をつくりました。が、これも主人と私のこどもの頃の無意識のうちの体験が、影響しているという気がします。

叶 僕は絵、音楽、落語、演劇が好きで、生まれが灘区だったので休みの時はよく近代美術館へブラツと散歩に行っていました。絵を描いたり、演奏したりは全くできなかったのですが、とても楽しかったのを憶えています。今は職場が元町なので昼休みに小さな画廊に立ち寄りして、自然な生活の営みの中で、美術や音楽を楽しんでいます。これらが、どういうふうなところからきているか、はつきりとはわかりませんが、父はずっと尺八を吹いていましたし、母は書や日本画をしていました。やはりそういうものが意識化にあるのではないのでしょうか。○から九歳までの家庭での体験、また一歩家庭から出た地域での体験を我々は「原風景」と呼んでいます、豊



かな「原風景」が大人になった時の人格や情緒に影響していきます。ところが今のこどもの現状を見ましたら、路地で遊んだり、とっくみあいをしたり、木登りをしたりという環境がない。私は乳幼児教育の神戸アカデミーでは、家庭内の文化環境を充実させていこう、家庭内のお母さんの育児力をサポートしていこうとしています。本当はもう少し枠を広げて、コミュニティ内の文化環境を充実させていきたいのですが、なかなかそこまではできなくてイライラしているというのが現状です。そこでも博物館を核にして、コミュニティ、家庭へと、こどもの育児環境を整えていくとすばらしいと思います。竹田 私共の研究所では日本のこどもと世界のこどもの意識比較をしておりますので、それをふまえてお話させて頂きますと、ポイントは四つあると思います。まず、重要なのは環境だと思っています。もうひとつは幼児期の体験。「三つ子の魂、百まで」というのは本当のことで、私も痛感しています。幼児期にどういう体験をしたかが、その時はそれほど成果がなくても、あとあとに影響してきますね。そしてその体験が続けられる生涯教育の場です。こどもの頃から生涯を通して続けられるものとして、継続できる場があればいいと思います。



「お鼻」の展示 触って学ぶ  
ボストン子ども博物館で(アメリカ)

川を渡っているといわれています。三途というのは遊ばず、学ばず、働かず。遊んでいるように見えて実は遊ばされている、学んでいるように見えて学ばさせられている、働かずというのは働こうにも、お手伝いをする場所がないのですね。

並川 私たちのこどもの頃は家の前の道はこどもが掃くというようにこどもの役割がありましたよね。

竹田 そういう環境はおかしいのでは？ といっても、あともどりはできない。そういう時にこども博物館という発想が生まれてくる。私も世界のいろいろな博物館を見ましたが、ではどういう博物館がいいのかという、まず、ただ展示物を見るだけでなく、体験ができるというのが漠然とあります。どんな体験かという、完璧なまでにシミュレーションされた部分と、住んでいる人と触れ合うという体験が必要だという気がします。フランスにエコミュージアムというのがあります。地域ぐるみの博物館でして、新しい建物を次々と建てるのではなく、今ある居住空間そのものを見直して、どんな役割があったのかをそこに住む人自身が再発見して、それをこどもたちに伝えていくといったものです。例えば、マルセイユやリヨンなど、ぶどうの産地などでその土地の建物を生かしながら、村の特産品のことなどについて地元の子どもたちだけでなく、観光客にも説明しています。そういうエコミュージアムの思想がフランスでは随分普及してきています。これは一種日本では「村おこし」だと思っています。神戸でもそういうことができないかと思うのですが、今あるものを見直して、そこにかかわっている人がもつともっとそれを活用してそれを伝えていくことができればいいと思いますね。

★こどもが我を忘れて学べる環境を

三木 ボストンは最初港町として始まりました。やがて飛行機の時代に入り港町としての機能は小さくなっていったのです。それに伴い港の周辺の倉庫群がゴー

スタウン化し、環境のあまりよくないところとなっていきました。そういう時に市がウォーターフロントの再開発として、健全な家族が集まってこれる施設をつくることで再生しようとしたのです。水族館、こども博物館、コンピュータの博物館などができて、土日でも家族が歩いていける場所に変わってきました。今でも世界中からウォーターフロント再開発の成功例として視察にいられています。

こども博物館ですが、その定義を時代とともに変えていく必要があると思いますね。こども博物館にとって一番大事なのは、こどもがそこで我を忘れて何かを学べる環境をつくることなのです。アメリカにはこの二十年でほとんどブーム的にこども博物館ができています。いわゆる普通の博物館のように展示物があってそれを単に見るという形ではありません。我々はこども博物館を「安全な環境にあって、こどもがこどもらしくいられる。触っても心配がない。その上(展示物)にすわっても、時には蹴つとばしてもこわれる心配がない。親とこどもが一緒になって楽しみながら、学ぶ過程を共有できる、つ

まり、展示物が媒体となって親子が対話できる。同時に、たくさんの方の集まるところで、公共のマナーが学べる機会」だと考えているのです。

ボストンこども博物館では展示の主なテーマがアメリカの歴史、アメリカン・インディアン、芸術、科学、幼児教育、ボストンの多民族社会と異文化体験ですが、それぞれの専門のスタッフがいて展示物を開発・制作しています。大人とこどもの学び方の違いは、大人は新しい知識を得ることによって興奮しますね。こどもはまず自分の環境との差を探すんですよ。まず、「これ知ってる」ということから始まり、その中でよく見ていくうちに違いを見つけて、「こういうこともあるのか」と学んでいきます。こどもを取り囲む環境、彼らの抱える問題を、丁寧に調査して、新しい展示に生かすようにしています。見たたり聞いたりして学ぶことの上に、展示物に直接触れる体験も加えています。手に触れて感じ、「あれっ?」と疑問の湧き上がった瞬間を捉えて、展示そのものがそれに答えられるように工夫しています。

人間の体について腸の絵から突き出たヒモの端をずう



ボストンこども博物館の館内風景 写真上/本物のお屋さんごっこができ、商品もこどもの小遣いで買える 写真下/街を歩いて目にするマンホールの下がどうなっているか、正確に再現されたもの。家の構造や地面の下がどのようにたくさんの配管や配線が隠されているかわかるようになっている。全体はジャングルジムのような空間で、遊びながら自然に学べる。

■ボストンこども博物館(アメリカ・マサチューセッツ州)

1913年、ボストンの古い港の倉庫を改造してつくられた、こどものための博物館。1960年代にそれまでにない形の手に触れる体験型展示の開発が始まり、脚光を浴びた。たとえば何でも実寸の12倍の大きさのコーナー。背丈より長い鉛筆で字を書いたりすることによって、なぜその大きさが良いのかを実感をもって理解させる。しゃぼん王のおばけをつくったり、色とりどりの球で水遊び、ボールの走るレースウェイからは遊びながら物理が学べる。「おばあちゃんの家」のディスプレイでは旧式のキッチンでこどもたちが見よう見まねでピーナツをつぶしてピーナツバターをつくっている。「おばあちゃんの屋根裏部屋」では「おばあちゃん」の頃のドレスや帽子、靴が試着できる。他に本物の日本家屋で日本の生活を体験したり、100万個のレゴの部屋、車椅子を体験するコーナーなど、遊びながら、歴史、芸術、科学、民俗、異文化が学べる様になっており、子供のみならず、大人も夢中になってしまう博物館である。



つと引つ張り出すと何メートルにもなるその長さが見られるという展示、再現されたアメリカ・インディアンの家で乾燥した保存食を食べてみたり、車いすの体験装置では迷路のようなコースがつくられていて、そこを子どもが車いすに乗って一回りするというもので、そのコースが砂地だったり、デコボコだったり、段があったりしていて冒険コースとなっているのですが、同時に車いすでそういった場所を行くのがいかに大変かということも実際に知るようになっていきます。遊びながら学び、他者へのやさしさ、いたわりを身につけるといいうわけです。さまざまなジャンルの展示が段階をおって考えられているので子どもの興味は尽きることなく、毎日のように、「さあ帰ろう」と親に言われて、子どもが泣き出すシーンに出会いますね。

そして子どもたちはまた博物館の学芸員に会うのも楽しみにしています。ポストン子ども博物館では十代の子どもたちが二十代のインスターンのアシストをボランティアとして行っています。お兄さん、お姉さんとして自分より少し小さな子どもたちが展示を理解するのを助けるのです。このように展示物と子どもの間には人がいっぱいいるのです。

叶人は環境の子なりといわれますが、環境には三つあると思います。両親、先生など人的環境、おしめ、おもちゃといった物的環境、そして自然環境です。このバランスが大事だと思いますね。日本は高度成長期以降、豊かになりましたがその反面、子どもの成長の場を奪ってました。核家族化も進んだ。今、昔に帰るということではなく、こういった子ども博物館を起爆として、今一度、子どもに人的、物的、自然の環境を構築していく必要があると思いますね。

### ★親子で夢中になれる展示づくり

並川 三木さんよりポストン子ども博物館のお話を伺いまして、とてもすばらしい、おもしろそうだなと思いま

した。今では昔のようにチャンバラごっこをしたり、土管が置いてあってその中にもぐったりという場所がなくなってきましたからね。整えられた公園しかないのも、こういう体験ができてしかも勉強ができるといふ子ども博物館はすばらしいと思います。それと私が特に幼稚園で子どもたちに体験させてあげたいと思うのは伝統行事なんですね。今の家庭では豆まき、お月見、七夕などをしなくなっているのです。こういった日本の伝統的な文化は、日本の心のふるさととして幼児期に体験させてあげたいと思います。

竹田 調査によると大人だけでなく、子どもたちもそういう日本の伝統とか数奇といったようなことに、ある種珍しいというのもあるが、心の安らぎを感じると答えてくれているのですよ。お父さんが七夕などのようにちょっとした昔の伝統的なことをやってくれると、子どもはとても喜ぶということがデータからわかります。だけど今の状況で七夕をやりたいが竹がない時はどうするんだ？ という家庭だけで、できない時に、では地域でやろうというようにしていけばいいのではないだろうか。それと地域に子ども博物館ができた時に、ぜひそこでお父さんが父親としての役割を果せる場になるようにすればいいと思うのですが。

叶 たたとえば子ども博物館でお父さんと子どもが一緒に竹とんぼをつくるとかね。

並川 それがねえ、今の若いお父さんは竹とんぼをつくれないうです(笑)。竹馬をつくったり、大工仕事が上手にできるお父さんが少ないのです。

三木 この施設のというのは親子が一緒に取りくめたり、日本の伝統や文化がそこへ行けば、遊びを通して学べるようなんですね。子ども博物館といふと子どもだけの施設のように思われけど、子どもは自分だけではそこへ行けないし、親の為に元気づけるための施設でもあるのです。年間入場者数の半数近くは大人ですし、我々は大人にも面白くて試してみたくなる展示づくりを心

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市中央区港島中町6-3-2  
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉  
神戸市中央区港島中町6-5-1  
TEL (078) 303-3311



がけています。ですから大人が夢中になっている間に子どもがどこかへ行ってしまい、迷子になってしまうことがしょっちゅうありますよ。私も年齢的に言えば私自身が竹馬をつくったりとかの体験していないので、子どもにもどう教えたらいかわからないという世代ですが(笑)、こども博物館へ行けば、親子でお互いに教え合いながら、そういった体験ができるのですね。それとこども博物館にはありとあらゆるジャンルの展示があります。こどもは環境全体の中から物事を学びますから、いろんなジャンルの展示を体験するうちに、自分の興味が何かを見つめます。例えば、美術に関する展示に興味を

持ち、どんどんそれが面白くなったら、次は美術館に行くという風に、最初のステップになればいいと思います。

叶 政治家にしろ、建築家にしろ、会社の社長にしろ、もとはこどもだったわけで、いろんなジャンルのの中から学び、興味を追求していけるのだと思いますね。幸い神戸は本当に恵まれていて、山があり、海があり、港がありとすばらしい環境なわけですから、その環境を生かして良いこども博物館がつくれると思いますよ。

並川 ぜひ、こども博物館を神戸につくって頂きたいと思いますね。  
(兵庫倶楽部にて)

キャンペーン「ファッション都市神戸を考え  
る」の企画は以上各社の提供によるものです。

# もうさの HYOGO WALK

■さわやかな県土づくりをめざして

## 森の緑で 心の豊かさを育てたい

——第四十五回全国植樹祭（但馬・森の文化展）

お話を伺ったひと

北浦<sup>きたうら</sup> 義久<sup>よひさ</sup>さん  
兵庫農林水産部 全国植樹祭事務局長

平成六年五月二十一日(日)、兵庫県美方郡村岡町海川平(ころかわだいら)にて、第四十五回全国植樹祭が開催されます。この催しは、昭和二十五年山梨県で第一回目が開催されて以来、全国を一巡し、その間一千万ヘクタールもの植林が行われてきたという、大きな実績のある祭典なのです。

「戦争で荒れ果てた山野に緑を」という目的で、そもそもこの植樹祭ははじめられました。今年二巡目を迎える兵庫県での第四十五回目は「物の豊かさによって荒廃しつつある私たちの心に緑を」育むために開催されます。

そのほかにも植樹祭には、林業の振興と地域の活性化、そして国民に森の大切さを知ってもらおうというねらいがあります。天皇、皇后両陛下とともに実際に植樹を行い、参加者全員の記念の森をつくります。

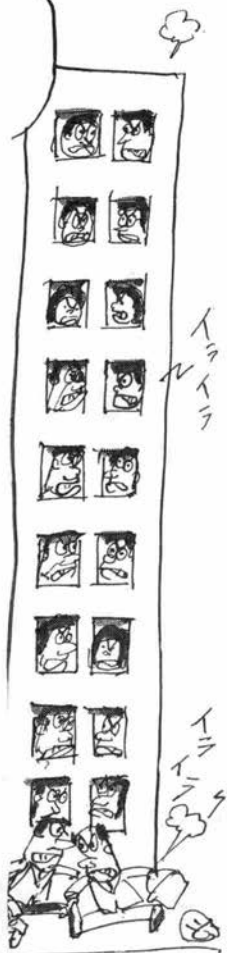
「その会場づくりですが、いかに緑を大切に、自然を活かしたものにすることを考えました」と全国植樹祭事務局長の北浦さんは言っています。二つある会場はど

ちらとも、従来から使われているものを活用し、自然の素晴らしさを学ぶステージとして整備されました。そしてシンボルとなるのが安藤忠雄氏が設計した「木の殿堂」です。歴史、文化、伝統、自然、夢が生かされた、自然教育の拠点施設として、展示室、工作室、図書室、ハイビジョンシアターなどをつくり、そのユニークな形とともに楽しめるようになっていきます。

県民一人ひとりが木を通じて生命の大切さを感じることのできる「ワン・ファミリー・ワン・ツリー運動」との連携、日本全国、世界への祭典のアピールの実施などが兵庫の植樹祭の特徴です。昔から生活文化の拠りどころとなってきた森とのかかわりを一人ひとりが見つめ直し、輪を広げることによって、森とふれあう新しいライフスタイルをめざしていきたいものです。

■お問い合わせは

兵庫県農林水産部 全国植樹祭事務局  
☎〇七八 三六二 三四八九



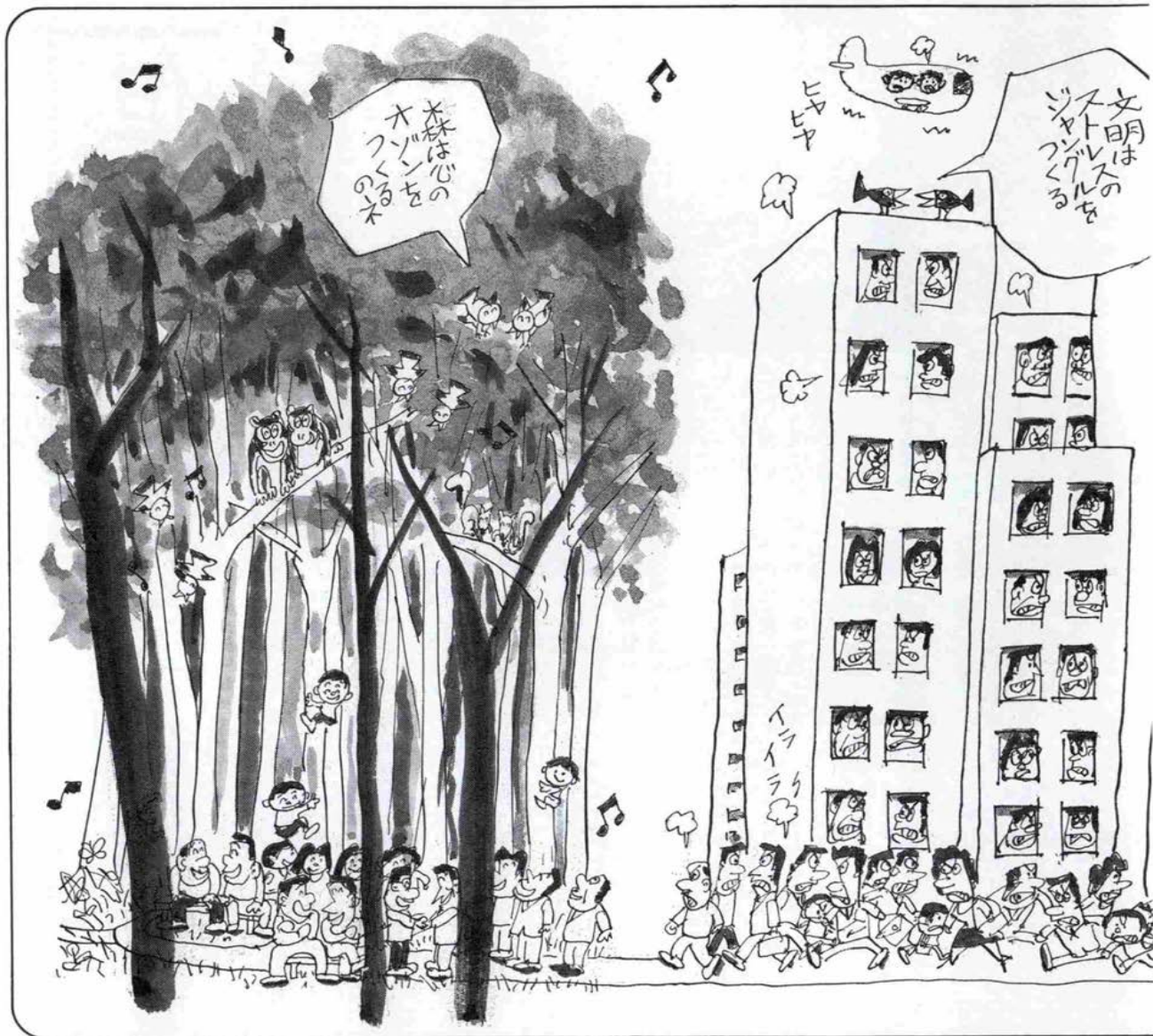


木は心の  
オゾン  
を  
のける

文明は  
ジャスト  
バランス  
を

ヒヤ  
ヒヤ

ハイ  
ハイ





「こころのふるさと見つけにいこう！」

# 但馬見聞録

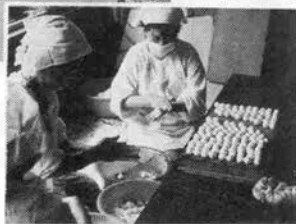
その3 八はたるの住む里・日高町・  
養父町・山東町・出石町

自然に生息するホタルはほとんど見る  
ことのできない神戸。宮本輝の小説「蜩  
川」に出て来るような、ホタルのうねる  
ような光の波を一度見てみたい。今回は  
但馬の中でもホタルのお祭りが催されて  
いる町を訪ねました。

神鍋高原、名色高原で知られる日高町  
では、三方地区に住む若者たちの会「大  
樹の会」が、田ノ口区と共催して「ほた  
るのタベ」を催しています。場所は歩いて  
調べた結果、三方地区で一番ホタルの  
数が多かったという田ノ口川のほとり。  
参加者は一キロの道を歩きながらホタル  
の鑑賞を楽しみ、婦人会手づ  
くりのパザーに



“ほたるのタベ”は6  
月25日。婦人会たんぼ  
ほの会の人たちの作る  
ほたるだんごが人気。



養父町奥米地の“ほたるの宿”。宿泊は一泊二食で  
6000円より。問い合わせは0796-65-0588まで。

舌鼓をうちます。大樹の会会長の成田保  
さんは、「息子、孫達に自然を残していく  
のが一番の目的です。ホタルを見ながら  
自然の大切さを考えて欲しいのです」。

ホタルを通じて自然保護の大切さをう  
つたえるもう一つの町は、鯉の産地とし  
ても有名な養父町です。中でも奥米地区  
はその素晴らしい環境を、地区を活性化  
する村づくりにより早く結び付けまし  
た。八はたるの里創造協会／会長の村崎  
政体さんが「小さな虫が住めないような  
所に人間が住むのは不自然です。小さな  
命を大切にすることが、結局人間を大切  
にしていることになるですよ」と語る  
ように「自然と人間が共生する地域づく  
り」が進められてきました。農薬の自主  
規制、合成洗剤を使わずに古油を使っ



## ★ふるさと発見バスツアー のご案内

ひょうごふるさと館では、但馬  
の祭典の開催に合わせて、次のツ  
アーを企画しました。定員になり  
次第締め切ります。お早めにお申  
し込み下さい。

### ●新緑の但馬散策／ 「山菜狩」と「木の殿堂」

出発日 5月26日(木)

定員 45名

旅行費用 おひとり6900円

●「十戸温泉花しょうぶ園」植  
村直己冒険館」と「大但馬展」

出発日 6月11日(土)

定員 45名

旅行費用 おひとり7200円

●「玄武洞」と

「大但馬展」海の生物展」

出発日 6月19日(日)

定員 45名

旅行費用 おひとり7500円

●「出石の町並み散策」と

「大但馬展」

出発日 6月30日(木)

定員 45名

旅行費用 おひとり6700円

(お申し込み・お問い合わせ)

全但バス株 神戸営業所  
TEL078-841-4341

旅行企画

ひょうごふるさと館

神戸市中央区南通町丁目1-26  
ケイ・エスビル(そごう新館)2階  
TEL078-252-0686/FAX078-252-3734



“養父町石ヶ堂古代村キャンプ場”

茅葺きの竪穴式住居が立ち並ぶ、古代ロマンの里、石ヶ堂にあるキャンプ場。利用料大人1日200円、子供100円、宿泊料大人500円、子供400円。問い合わせは☎0796-64-0281



ほたるの里創造協会発行の“自然観察ガイドブック” ¥980

せっけんを作るなどの人々の努力が、降るように乱舞するホタルの群生をよみ返らせました。平成元年には環境庁より“ふるさといきもの里”に指定され、今やほたるの里のシンボルとなっている“ほたるの館”は都市と農村の交流の場として、年々利用者が増えています。今年の第九回ほたるまつりは六月十九日(日)。前夜にはほたるの館前でコンサートも開かれるので、ほたるの館で一泊し、周辺の公園を散策する時間を持つのもいいかもしれません。ほたるの館に泊

ヒメハナバチ”がこのお寺を有名にしました。ウツギの花が咲く五月下旬〜六月中旬、その開花に合わせて体長十ミリのヒメハナバチが境内の土中より顔を出し、乱舞します。その数二十万匹ともいいますから、少し恐ろしいくらいでしょう。もっとも人体を刺すことはないとか。そして楽音寺の住職藤本義性さんいわく「このハチの力で連れてきた」の



楽音寺の庭には5月下旬〜6月下旬、ウツギノヒメハナバチが土中から出てきた時の穴がいっぱい。

まったらぜひ食べてみたいのが、アゴが落ちると評判の、但馬牛のステーキ。養父町では他に、円山川右岸沿いに最近オープンした“道の駅やぶ”で、ステーキをお安く食べることが出来ます。やはり本場、味が違います。但馬の南、南但の小さな町山東町でもほたるまつりが開かれます。山東町のテーマは“緑風の郷”標高九六二メートルという但馬屈指の高山、粟鹿山がそのシンボルです。貴重な文化財が残る神社仏閣も多く、中でも有名なのが“楽音寺”。いくつもの県指定重要文化財があるばかりでなく、県指定天然記念物“ウツギノ

1994.5.18、  
わたしたちの夢を乗せて  
但馬空港が開港します——

但馬⇄大阪  
35分

但馬空港推進協議会  
兵庫県豊岡市山王町11-28  
☎0796-24-2247

よみがえる青春。いまこの胸に、この町に。

## ほたるの里の星空コンサート

出演 タイガースメモリアルクラブバンド

日時 平成6年6月18日(土) 開場 午後6時 開演 午後7時

場所 兵庫県養父町奥米地 野外特設ステージ

チケット 前売券3,500円 当日券4,000円 (小学生以下無料。但し保護者同伴とする。)

問い合わせ先 兵庫県養父郡養父町広谷250-1 養父町役場企画商工課 TEL.0796(64)0281





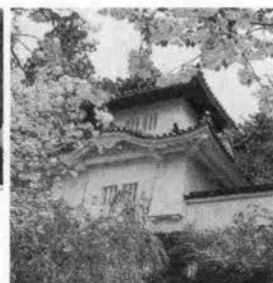
ヒメハナ公園のシンボル“ヒメハナ橋”にて。  
4月2日のオープニングセレモニーには中国  
からの留学生も招かれた。



ヒメハナ公園は山の間に  
細長く横たわる公園。坂  
を登っていくと一番上に  
手形を集めて作ったモニ  
ュメント“千手の塔”が  
ある。



が、この四月開園した“ヒメハナ公園”  
です。緑の陵線に囲まれた谷あいを細長  
くのびた、県下屈指の総合公園で楽音寺  
にハチを見に来た人はハイキング気分で  
散策するといいでしょう。さて、今年で  
四回目を数えるほたるまつりは六月十二  
日(土)。午後四時から山東町の役場前で  
イベントやバザー  
ルが催されます。  
暗くなったらホタル  
観賞。粟鹿川、  
磯部川を拠点に、



取材した時は出石城の夜桜がまだ美し  
かった。左は4月に行われた名物そば  
喰い大会の様様。



緑風を肌感じな  
がらホタルを眺め  
ましょう。

最後に訪れたの  
が出石町。その景  
観や史跡、有名な  
そばについてはま  
た別の号で紹介す  
るとして、さすが出石町はほたる祭りの

歴史も長く、今年で十三回目を数えま  
す。出石町の奥座敷である奥山地区を中  
心に地元の祭りとして、長く愛されてき  
ました。奥山溪谷で飛ぶホタルはまわり  
を杉木立に囲まれ、上へ、上へ、天女の  
様に昇っていくとか。今年のほたる祭り  
は六月二十七日から七月三日。期間中は  
マスのつかみどり、子供の絵画展、写真  
展、ホタルを育てるための講座なども行  
われます。

ホタルの一つ一つの光は小さいけれど  
それを少しづつ増やしていった人々の想  
いは大きなもの。「各町のイベントには  
それぞれ村づくり、町づくりの想いが込  
められています」といった養父町役場の  
日下部さん。但馬の祭典の350のイベント  
はそうした人々の想いの結集なのです。

## TAJIMA TOPICS

★世界最大の木像三大仏  
“但馬大仏”が村岡町に  
誕生

村岡町の川会山長楽寺にこのた  
び、世界最大の木像三大仏が完成し  
ました。TVや新聞でご存じの方も  
多いかもしれません。

中央に釈迦如来像、向かって左に  
阿弥陀如来像、右に薬師如来像が安  
置されていますが、中央の釈迦如来  
像が一番大きく、身の丈は15・8メ  
ートル。あの奈良大仏が14・98メ  
ートルですから、それよりも大きい仏  
像を想像してみてください。また左右  
に座される二体の如来像も15・2メ  
ートルと、ほとんど変わりません。  
東大寺の柱には奈良大仏の鼻の穴と  
同じ大きな穴が開けてあります  
が、この大仏の鼻の穴はちなみにそ  
れよりも大きいのでしょうか？使用  
された金箔の量は約132万枚だそ  
う。中国の仏師が心をこめて造りあ  
げた平成の大仏です。

そしてもう一つの目玉は、大仏殿  
の南側にそびえ立つ五重塔。越前大  
仏の五重塔に次いで日本で二番目の  
高さを誇っています。長楽寺の広い  
境内には他に大門、薬師堂、回廊、  
弁天堂が配されています。但馬の祭  
典を機会にぜひ訪れてみたいもので  
す。



但馬大仏

# KOBE FASHION SPOT

## ★関西日米婦人会

春のファッションショー開催

4月11日(月)、神戸ポートピアホテル音楽の間に、関西日米婦人会のチャリティー・ファッションショーが開催された。

同会は、77年に当時の米国総領事夫人の提唱により創立され、日米両国の友好と、社会福祉を目的に掲げ、ユニークな活動が続いている。この日のモデルは日米の会員が務め、スーツやフォーマルドレス、花嫁衣装を身につけて登場、会場から盛んな拍手が贈られた。

また、ショーに先立ち、同会の活動のひとつである奨学金の授与式が行われた。今年は、ユニッタ・カンパニーからの奨学金の寄付もあり、6人の学生が奨学金を授与された。



会員がモデルとなり、ファッションショーがくり広げられた。

## ★オールド・イングラント

旧居留地にオープン

1867年、パリに生まれたオールド・イングラントが、1989年に初の海外進出として日本に上



トラッドなアイテムが並ぶ店内

陸。銀座、青山、そして関西初の大阪心斎橋に続いて、この3月26日に旧居留地にフラッグシップショップとしてオープンした。創業以来の哲学「1人1人のお客様に対するきめ細やかなサービスと、品質の高い商品」を徹底し、熟知した次代の大人へのメッセージとして、パリの様々な風景が物語るクラシックさを基本に「デ・コントラクテ」の楽しい服の着こなしを届けている。店内は、洗練されたトラッドなアイテムが並び、まさに神戸にふさわしい店。旧居留地の新しい仲間へ貴方のファッションを探しにおでかけ下さい。

■中央区浪花町46番地 ☎078・333・2381 (営11時〜20時 定休日は大丸に準じる)

## ★ジオ・スポーツ・マック新しく生まれ変わってOPEN

三宮センター街、ジンの近くの「ドルチェ・マック」が2月26日「ジオ・スポーツ・マック」とし

てリニューアル。1F、2Fともレディースエレガンスからカジュアルまでファッショナブルなアイテムが揃う。

「オシャレな人はただパンツとシャツを合わせるだけでなく、そこにもう1品、アクセサリやベストを重ねます。サイズや形も色々取り入れてみて下さい。最近では新素材のテニスやレーヨンなどソフトな素材を楽しむ人が多いです」とアドバイザーの久保さん。その言葉通り、楽しさ広がるオシャレを取り入れた魅力あるお店になっている。

■三宮センター街二丁目 ☎078・332・0141



KOBEファッションパビリオン'94  
ラテンパラダイス  
ーラテンに恋よ！ー  
6月11日(土)  
19時30分〜21時30分  
神戸フィッシュダンスホール  
(メリケンパーク内)  
前売3500円  
当日4000円

詳しくは、105ページのモダンカルチャーを参照下さい。